

| | | | | | |
|-------|-------------|-----|------|------|----|
| 教科 | 保健体育 | 科目名 | 保健 | 単位数 | 1 |
| 学科 | 全 | 学年 | 1 学年 | 履修区分 | 必修 |
| 使用教科書 | 現代保健体育(大修館) | | | | |
| 副教材など | 現代保健体育ノート | | | | |

1. 科目の目的

○健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を体系的に学習することにより、健康課題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとし、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うことを目的とします。

2. 授業の内容と進め方

○教科書をベースとし、単元に応じた事例やデータを準備し、授業を行っています。

3. 学習する上での留意点

○現代社会と健康、安全な社会生活、生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりとその活用について、個人だけでなく社会生活について総合的に理解できるようにするとともに、それらの内容にかかわる技能を身に付けることを目指す。
○健康にかかわる事象や健康情報などから自他や社会の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考したり、様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなどの判断をしたりするとともに、それらを他者に表現することができるようになることを目指す。
○自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力を育てることによって、生徒が現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにすることを目指す。

4. 課題等について

○必要に応じて保健ノートの課題提出を課することもあります。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

| 評価の観点 | 評価規準 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けることができているかを評価します。 |
| 思考・判断・表現 | 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養うことができているかを評価します。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができているかを評価します。 |

6. 評価の方法

【 知識・技能 】 各考査、小テスト等

【 思考・判断・表現 】 ノート、プリント、小テスト、グループ学習、発表等

【 主体的に学習に取り組む態度 】 提出物、グループ学習、発表等

| 学期 | 月 | 学習内容 (単元・考査等) | 学習のねらい | 評価方法等 | | | | | | | | | | | | |
|-------------|-----------|---|---|--|-----------|--|---|-----------|---|---|-----------|--|--|-----------|---|--------------------------------------|
| 一 学 期 | 4 | 第1章 現代社会と健康 1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた 3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復 6. 運動と健康 期末考査 | 第1章 現代社会と健康 【知識・技能】 ○国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること、また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用のもとに成り立っていること、健康の保持増進には、ヘルスポモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりがかかわることなどを理解できるようになる。 ○健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や早期発見、及び社会的な対策が必要であることなどを理解できるようになる。 ○喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること、また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることなどを理解できるようになる。 ○精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること、また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることなどを理解できるようになる。 | 【知識・技能】 各考査、小テストなど 【思考・判断・表現】 ノート、プリント、小テスト、グループ学習、発表等 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、グループ学習等 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 5 | 7. 食事と健康 8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康 12. 精神疾患の特徴 | 【思考・判断・表現】 ○現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを実践することができるようになる。 【主体的に取り組む態度】 ○現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようになる。 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 6 | 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復 15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズとその予防 期末考査 | 【知識・技能】 ○感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人の取り組み及び社会的な対策が必要であることなどを理解できるようになる。 【思考・判断・表現】 ○安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること、また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること、交通事故には補償をはじめとした責任が生じることなどを理解できるようになる。 ○適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること、応急手当には、正しい手順や方法があること、また、応急手当は傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行うことが必要であることなどを理解できるようになる。 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 7 | 第2章 安全な社会生活 20. 事故の現状と発生要因 21. 安全な社会の形成 22. 交通における安全 | 【思考・判断・表現】 ○安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを実践することができるようになる。 【主体的に取り組む態度】 ○安全な社会生活についての学習に取り組もうとすることができるようになる。 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | 8 | 23. 応急手当の意義とその基本 24. 日常的な応急手当 学年末考査 | ○安全な社会生活についての学習に取り組もうとすることができるようになる。 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10 | 25. 心肺蘇生法 | ○安全な社会生活についての学習に取り組もうとすることができるようになる。 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 11 | 25. 心肺蘇生法 | ○安全な社会生活についての学習に取り組もうとすることができるようになる。 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 12 | 25. 心肺蘇生法 | ○安全な社会生活についての学習に取り組もうとすることができるようになる。 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 1 | 25. 心肺蘇生法 | ○安全な社会生活についての学習に取り組もうとすることができるようになる。 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 2 | 25. 心肺蘇生法 | ○安全な社会生活についての学習に取り組もうとすることができるようになる。 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 4 | 25. 心肺蘇生法 | ○安全な社会生活についての学習に取り組もうとすることができるようになる。 | | | | | | | | | | | | | | |